冬期・幼稚園に於ける疾病豫防

廣瀬　興

幼稚園に於て缺席の多い時期は麻疹百日咳の流行期であるが、一般的には一年中先づ冬期と云つてよいであらう。感冒、氣管支カタルの如き呼吸器病のためが多い。故に幼稚園に於ては冬期には主として呼吸器病に對する豫防鍛錬が肝要である。一般小兒病は勿論傳染病の如く細菌の感染によつて起る疾病すら其の細菌が體内に侵入しても必ずしも發病するものではない。其の傳染病菌の多少、强弱或は侵された身體の抵抗力の如何により發病するものもあり、或は何等の症狀を自覺せず經過する場合もあり得るのである。殊に感冒、氣管支カタルの如きは勿論、結核の如きすら然りである。我國は結核發病患者大略十數萬と云はれるが結核感染者は我國大人の殆んど九〇％以上であるといふ割合から云へば他の疾病に比して案外結核が感染しても發病せぬものだといふことが判る。從つて常に身體の抵抗力を高めて置くことが最も大切であり、この事が豫防であり治療でもある。

疾病に對する抵抗力を强めるには、疾病によつては特殊の豫防ワクチン等によつて得られるものもある。例へば天然痘、ヂフテリア、百日咳、麻疹、腸チフス、赤痢、猩紅熱等である。其の中天然痘は完全に、ヂフテリアは殆んど完全に豫防が出來る。百日咳、麻疹も近年は數ヶ月間完全に豫防は可能である。斯る特殊の抵抗力發成處置も猶、之に加へて一般身體抵抗力增進法が必要である。況んや他の疾病に於ては一層、一般の身體抵抗力の增進や鍛錬が重要である。

然らば、身體抵抗力の增進殊に冬期幼稚園に於ては如何なる注意が必要であるか。

第一に合理的の榮養攝取、第二に環境の良衛生狀態、第三には以上二要件の一つ一つに付いて幼兒自身が積極的に實行する良き習慣を有することである。卽ち所謂健康保育である。

小兒の榮養問題は特に重要で小學生の虛弱兒の大部分が乳兒期の人工榮養と離乳期の榮養と幼兒期の偏食、間食の問題に密接の關係を有してゐることによつても頷かれるのである。

我國に於て常用される食品材料は約四百種と云はれてゐるが、其の各々一種によつては如何に多量に攝つても質的に不完全であつて遂ひには其の抵抗力を弱め疾病を招來するに至る。母乳の如きすら生後六ヶ月迄は完全榮養物であるが其れ以後は血液に必要なる鐵分其他が不足して、貧血、筋肉薄弱、神經質等を來す。離乳期の遲延のため此の時期我國に於て死亡率の極めて多い事は周知の事實であり、我國大人の日常獻立中乳兒に直接與へ得るものが少いことゝ、母親の離乳榮養知識の缺乏の原因である。

約四百種位の食品中、各々特徴を有し、(イ)獸肉、魚肉、豆類の如き蛋白質、(ロ)野菜海草、動物の骨骼中に主として存在する鑛物質は身體の組織構成や血液體液の組成に役立ち、(ハ)米麥等の穀類、馬鈴薯其他の澱粉類、砂糖類の如き含水炭素、(ニ)動植物の脂肪類の二つは主として體溫發生、エネルギーの供給に必要で殊に冬期寒冷の際は脂肪多き食品を攝らしめること、脂肪類を嫌ふ幼兒には勉めて何等かの方法で之を攝取する樣心掛けることが疾病豫防上肝要である。俗間空腹時に風を引くと云ふのは事實である。油濃いものを食すると體が溫まると云ふのは脂肪が溫發生の役目があり餘分は體內に貯藏せられるからで其代り脂肪や含水炭素は直接、筋肉や骨骼を肥らせないであらう。

其他、ヴヰタミンの各種の不足は必ず抵抗力を弱める。自覺的に症狀を現はさずとも、不安定の狀態にあつて若しそこに病源體が浸入した場合は直ちに發病し急速重症となる傾向を有すものである。殊に冬期は日光不足が一般であるから平素日光によつて補給されてゐるヴヰタミンD(骨骼形成、感冒豫防の效)やヴヰタミンAを榮養によつて充分供給することが大切である。動物食品の內臟、大根葉、人蔘の如き青赤等色彩の濃き野菜、殊に鰯、卵黃等である。冬期、虛弱兒に肝油を與へてヴヰタミンA、Dを補ふのも一方法であるがこれのみにたよるは賢明ではない。

幼稚園に於ては平素偏食の傾向のある幼兒、殊に脂肪攝取を嫌ふ種類の者は注意して家庭と連絡をとり共同給食なり、辨當の獻立適正なりによつて、極力、合理的榮養攝取に努力するなれば必ず案外の感冒豫防效果を經驗せられるであらう。ヴヰタミンA補給の方法の場合、單にAのみならず、D・Bも共に與へる樣、肝油中にBを添加した榮養品例へば「パ、」の如き菓子類が多種販賣されてゐるからそれ等を利用するか又は肝油と同時にオリザニン、エビオスの如きB劑を與へると效果が大である。

環境の衞生上の要點は、日光、空氣、溫度、濕度、氣動の五條件であらう。

日光の不足は冬期に於て最も重要で感冒を恐れて戶外に遊せしめなければ却つて罹病せしめる。日光は細菌の滅殺

のみならず身體、細胞組織の活動力を盛んならしめ從つて抵抗力を强める。殊に都會に於ては日光に親しめさせることが必要である。太陽のエネルギーは、一八〇〇米の高山では七五%、海上では五〇%到達するのに、都市に於ては僅かに、二五%しか利用出來ぬと云はれてゐる。幼稚園に於ては北西東の窓を閉じ、南側のみより日光を射入する樣工夫して幼兒を成るべく薄着せしめ膚を露出する樣にして日光直射中に遊ばしめる。又、殊にセロファン紙の窓を作成して遊戯室中に日光を充分に採入するも可である。北陸東北地方の幼稚園に於ては效果が顯著であらう。

空氣の衞生的良否を考へる時、必ず物理的方面と化學的方面とを考慮せねばならぬ。卽ち主として塵埃の多少と其の性質、有毒ガスの有無である。閉塞し勝ちの遊戯室に塵埃多い時は必ず扁桃腺の肥大や腫脹が增加する傾向がある。茶殼や濕した新聞紙を散布して室內を時々掃除するのは有效であり、單なる箒掃除は却つて危險である。疾風時、園庭に散水することは冬期にも必要のことがある。

有毒ガスに就て問題になるのは暖房による一酸化炭素の中毒で、多量の場合には前額痛、後頭痛、嘔心、動悸、冷汗、眩暈、失心の順序に來る急性中毒症狀によつて判るが少量の場合は長期の輕頭痛、便祕、貧血、不眠、食慾不進、注意力散慢の如き極めて特徵のない症狀にて徐々に身體に重要の影響を及すに至る。元來、一酸化炭素は無味無臭無色無刺戟性であるから其の存在を認知するには前記の急性症狀によるより他に方法がないのは誠に遺憾である。木炭、煉炭、石炭、ガス其他煙突を裝置せざる場合必ず發生するもので、表面が全部眞紅に燃えた炭火でも最後まで多量の一酸化炭素が發生してゐるのである。煙突も繼ぎ目を嚴重に閉塞してガスの漏れざる樣にすることが肝要である。室內の空氣を時々換氣し新鮮ならしめ急性中毒は勿論、慢性中毒を防いで幼兒の抵抗力增進を阻害せしめない樣に注意すべきである。このガス中毒は一般に年少程甚しいが同年齡でも個人的差異が極めて大で、少量でも甚大な影響を及すものもある。

溫度、濕度、氣動といふ氣象的條件に就いては寒い暑い或は乾燥してゐる濕けるといふ樣に、一條件のみでなく必ず三者の配合を同時に考慮せねばならない。高溫高濕無風と嚴寒乾燥疾風が最惡である。冬期に於ては冷寒と乾燥と通風が同時に侵ひ來ることを防がねばならない。小兒の健康のために郊外に轉住して却つて每年病氣し勝ちになつたと云ふ例は冬期に於て餘りに風の强すぎたのが一因である。

榮養の項で述べた如く、含水炭素脂肪の攝取によつて產熱し常に平均三七度の體溫を保持して行かねばならないのが人間の特性である。これを恒溫性と云つてゐるが（この

他、恒酸性、恒壓性を有する)、若し餘分の熱が體內に鬱積すれば身體に惡影響を及すので、其の熱を何等かの方法で體外に放散せねばならない。この放熱作用の八〇%は皮膚表面の蒸發、傳導、輻射によるのである(他の二〇%は呼吸と大小便の如き排泄作用による)。卽ち、產熱作用と放熱作用とが常に調和して居ることが最も健康的である。而して、放熱作用の大部分は皮膚表面より行はれるのであつて、殊に小兒の皮膚表面積は年少程、大人のそれに比して割合が大であるから一層、皮膚作用と云ふものが小兒にとつて重要さが判然するのである。皮膚の養護、淸潔、鍛錬が大切なる所謂である。梅雨期の高溫高濕は鬱熱し易く消化器病を發し易き故に通風をよくし濕氣を除き、冬期、乾燥疾風を防いで脫溫を調節し、呼吸器病を豫防することゝなる。保育室、遊戲室に適當の水蒸氣を發生せしめ乾燥を防ぐことが必要である。俗間、防乾と云ふことを考へ異いして肺炎患兒の病室を全部目張りし、火鉢に洗面器を置き多量の水蒸氣を發散せしめ、高溫高濕無風といふ最惡の氣象條件を人工する例を屢〻發見するが、之れは前述の理論を知識せざるためである。正確に云へば病室の如き殆んど無風帶の處に於ては、濕球計華氏五六度前後が最適である(濕球計とは普通濕度計の中、水銀球を濕つた布で蔽ふた方である)。其故近來肺炎患兒に病室の開放療法さへ行つてゐる程である。

前述の如く、幼兒の疾病豫防には榮養と環境衞生といふ二條件が根本要約であるが、是等の事項も幼兒自身が平素それに適應した生活をせざれば何等效果が現はれない場合もある。例へば如何に完全なる榮養食を與へても幼兒がよく咀嚼する習慣がなければその效果は減殺せられて了ふであらう。日光が如何に豐富であつても幼兒が戶外に遊ばず、厚着の習慣があれば之れ又その結果は何割引きである。健康生活の良習慣、衞生上の正しき躾けが殊に冬期の幼兒疾病豫防の一要件であつて家庭に於て不可能なることも幼稚園に於て初めて可能ならしめる事項が多々あり、こゝに健康保育の重要さがあり、又、幼稚園の使命も現はれて來る所謂である。

健康保育、狹義に云へば健康上の良習慣を養ひ、衞生上の正しい躾けをする場合に常に念頭を去らしめざることは、集團的に總ての幼兒に同一方法、同一行動をさらしめては不可なることありといふことである。少くとも或る幼兒には消極的に、或る幼兒には積極的にと二種類ありと考ふべきである。消極的の幼兒に積極的保育をなせば健康を害するは勿論、積極的幼兒に消極的保育を行ひ續ければ健康增進は望めない。之れは保健上のみならず敎養上よりも同樣であらうが然らばこの兩者を如何にして區別するか。云ふは易く行ふは困難なる問題にして、こゝに於て、園兒全體の

幼兒には特に家庭に推めて檢査し置くべきである。案外、一般家庭の黴毒は多いもので東京に於て下町の産院で、一〇%、山の手の母親に七%、大阪の或る産院で一五%の母親の自覺せざる黴毒があつた。この割合より推定すれば全國相當數の潛伏黴毒かある理である。筆者が小學生千人の檢査によつて一・八%の潛伏黴毒兒を檢出したことがある。黴毒檢査も以前のワッセルマン氏反應の如く多量の血液や相當の費用を要せずとも、井出氏反應によると耳朶よりの數滴の血液と一名數錢の費用によつて檢出出來るであらう。

以上の如き檢診と家族歴(この事は最も大切である)とによつて其の幼兒の體質を大體判定するのである。勿論必ずしも組方の必要なき場合もあり或は特別の保育の必要のこともある。

猶、一般的に實施し置くべきはヂフテリア、百日咳豫防注射を家庭にすゝめることヂフテリアは約三ヶ年間は有效であるが百日咳も近頃の豫防ワクチンは方法によつては一ヶ年位有效であらうし又罹患しても輕症に經過するので一應行ふべきである。幼稚園に於ける百日咳の流行は最も悲慘である。百日咳は初期が最も傳染し易く未だ特有の咳嗽發作用の起さないカタル期が最大である。特有發作より三乃至四週間は危險であるがそれ以後は咳嗽發作が續いて

専門家の檢診が必要となつて來る。併し恐らく專門家と雖もこの兩者の判定は不可能の場合もあり、又保育の内容も複雜なる故、結局、一應、專門家の檢診によつて其の體質を判定し、園兒を大體、强、中、弱の三種に分かち、保育の場合、保姆は常識的に手心を加へつゝ次回の檢診の結果によつて判斷するより他に道はない。併しこの常識的といふことが、一見、極めて非科學的の樣であるが決して然らず若し保姆が極めて細心の注意を以て觀察するなれば却つて、效果的である。檢診醫が體格榮養判定に理論的判定式の應用に依つて定める場合より、視診による方、正確の場合が屢々であることゝ同樣である。

園兒の檢診は大體、身長、胸圍、體重、上膊圍、眼、耳、鼻其他一般内臓檢査であるが殊に結核の素質、先天黴毒の有無の檢査が大切である。蛔蟲檢査も地方に於ては必要で筆者の經驗では生後六ヶ月の未だ母乳が主食である乳兒の便中に蛔蟲卵を檢出した例が牢ではない。

結核檢査はマントウ氏反應によるので近來は小學其他一般の家庭に於ても厚生省體力管理制の下に實施に移されてゐるのであるから、一般幼稚園に於ても實行不可能ではあるまい。更に陽性のものに赤血球沈降速度の測定が必要である。

黴毒檢査(實行)はやゝ困難であるが精神薄弱知能低下の

も菌は消失してゐる。潛伏期は大體十日以内一週間前後とされてゐる。

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）も幼稚園の問題の疾病であり經過後も幼兒の抵抗力を弱め結核等の感染發病の原因となる。潛伏期が二乃至三週の長いこと、傳染力の强きこと殊に初期咽喉カタルや扁桃腺腫脹の時期に傳染力强き故に早期に發見して登園を禁止せねばならない。

以上の如き一般の注意の下に個性に注意しつゝ、咀嚼、偏食矯正、齒ミガキ、手洗洗面、爪切り、日光浴、戸外運動、薄着、乾布摩擦等其他家庭の生活狀態に應じ殊に保育所に於ては一層、母親を指導すべき健康保育の部門が多々あるこゝ思ふ。

要するに疾病の豫防の要決は單に一方法のみによつては其の目的を達し得ず前述の如く總ての諸條件に就いて注意を怠らざる事が一見、平凡なるが如くして最も重要である。

【新刊】

城戸幡太郎氏著

幼兒教育論

本書は序文の中で著者が言つて居られるやうに、ラヂオで放送されたものや雜誌（保育問題研究、教育）へ執筆せられたものを主どして集められたものであるが、それはまた著者の幼兒教育論でもある。一度び目次を開けば、どの項でも、讀み度い、讀まねばならないと思ふ題目ばかりである。本書は保育の仕事に携はつて居るものゝ心を、どんなにか高め、深め、廣くすることであらう。御一讀を切にお奬めする次第である。

（東京市神田區一ツ橋二丁目賢文館發行、定價金壹圓八拾錢）

津川主一氏譯

フレーベル愛兒保育歌曲集

フレーベルのムッター・ウンド・コーゼリーダの飜譯には、前に頌榮幼稚園版あり、後に岩波版がある。それ〴〵貴重の勞作である。たゞ、前者は創意多き自由譯であり、後者は偏に原語への忠實譯である。その中間に、尙ほ別の試みの行はるべき多分の餘地がありそうだとは、多くの人に感ぜられてゐたことである。津川主一氏の譯詞は、確にその一つであり、曲譜にあはせて、調に歌ひ易い柔か味がある。こういふ仕事に滿人の一致を期することは難いが、あの難解なフレーベルの古獨逸語を、こうまで平易化された苦心は、まことに敬意を表せざるを得ない。その上、曲譜集になつてゐるのは、岩波版と異る點で、歌曲集としての此書の元來を傳ふるものである。玆に新たに我國のフレーベル文獻を加へて下さつたことに對して、津川主一氏に感謝したい。

（東京市麻布區市兵衞町二丁目、教會音樂社發行、定價金參圓）